東京タワーが灯す日々

吹田明日香　タレント・キャスター

学生時代にアイドル歌手としてデビューすることになり、大阪から上京して六本木のホテルに滞在した。ネオンがやけにきらびやかで、夜遅くなっても人が行き交う六本木の街。眠れない夜を過ごしていたとき、窓から白いイルミネーションに縁取られた東京タワーが見えた。「ああ東京に来たんだ。都会の真ん中に独りぼっちでいるんだ」と実感したのが、このときだった。

東京で最初に行った観光名所も東京タワー。マネジャーが「TV番組はここから発信されているんだよ」と連れて行ってくれた。間近で見上げた東京タワーは圧倒的な存在感で、ちっぽけな自分を思い知らされたようで足がすくんだ。デビュー後はタワーをバックに歌う機会が何度もあった。タワーの存在感に負けちゃいけない、この電波塔から私の歌が全国に中継されてみんなに届くんだと思いながら、一生懸命歌ったことを覚えている。

東京タワーとのご縁はその後も続く。アイドルを卒業し、ニュースや情報番組のキャスター、リポーターの仕事を開始。時はバブル、オレンジ色に華やかにライトアップされた東京タワーを取材。その現場で、東京タワーを見上げると元気が湧くという人たちに出会った。久しぶりに間近で見た東京タワー、なんだか私も元気になった。まるで東京タワーがエネルギーを充電してくれたみたいだった。

リポーターとして自ら情報を取りに行く――。ロケや取材、仕事で全国を廻るようになり、出張には必ず、まだちょっと重かったノートパソコンを持参した。パソコンは電気がないと、ただただ重いだけの厄介者。だから空港でも駅でも新幹線の中でも、コンセントを探すのが習慣になっていた時期がある。思えば、ずっと電気のお世話になっていたことになる。

そして今、わが家のコンセントには実にさまざまな機器がつながっている。食洗機、ホームベーカリー、美顔器に健康器具、パソコンやスマホの充電器。フェイスブックやLINEで海外の友人と思う存分やり取りできることを考えると、人とのつながりにも電気が一役買っている。生活全体が電気で支えられているのに、普段は全然意識していなかった。震災で計画停電になって東京タワーの灯りが消えて初めて「あって当たり前のものじゃない」と気がついた。

もちろんそれから私も節電を意識するようになったが、今後、世の中はさらに情報化、超高齢化が進んでいく。医療や介護の現場も電気がないと大変で、私たちにできるのは大事に使うことくらい。

今、東京タワーの照明はLEDになり、七色のレインボーカラーを纏い、日々、変幻自在に色を変える。実は今の住まいも、窓から東京タワーが見える。電波塔としての役割はスカイツリーに譲ったが、どこか昭和の香り漂う温かみがあって、私は大好き。東京オリンピック2020の夢が叶い、五輪カラーに輝くタワーを眺めながら電気がもたらす豊かさを実感する。大切に使いたいと思う。躍

すいた　あすか　タレント・キャスター
同志社大学文学部英文学科卒。学生時代、日本テレビ「スター誕生」第41代チャンピオンになりアイドル歌手としてデビュー。大学卒業後はニュース・情報番組のキャスター・リポーターとして活動。特に「BSニュース50」「趣味の園芸」など、NHKのニュース、情報番組で活躍。NHK「生活ほっとモーニング～健康フェア～」（公開録画番組）では、約10年間、司会として全国を廻る。現在、キャスター、司会業に加え、アロマテラピー・インストラクターとしても活動中。

©Yuichiro Chino/gettyimages